

新型コロナウイルス感染症対策への関わり

看護部 副主任 感染管理認定看護師 浅井 雄治



2019年11月、中国武漢市で初めて報告され、瞬く間にパンデミックとなったCOVID-19。ロックダウン、入国制限、オリンピック延期などの措置がとられ、世界的大恐慌となっております。日本でも緊急事態宣言が発令されるなどの対策がとられ、現在もWITHコロナの生活様式が求められています。

感染管理の活動を始めて2年が経過しましたが、このような激動の中で「院内感染予防対策」の重要な役割を担うとは思いませんでした。コロナウイルス蔓延



※短時間で換気をしながら開催しています

COVID-19対策会議の様子。全部署から、代表者が参加。院を挙げて感染予防対策に取り組んでいます。

により国民の感染予防対策への関心が日に日に高まっており、感染予防の推進活動の重要性を改めて痛感しております。

現在、当院では手洗い・マスク着用などの感染予防行動をはじめ、面会制限や入院患者さんの外出・外泊の制限、職員の日常においても活動の自粛など、さまざまな制限がある中、「見えない敵」と戦うためにご協力頂いています。日常と大きく変化した環境が長期化する中で、多くの皆様がストレスを感じていることと思います。9月まで、当院はPCR検査陽性者は発生しておりません。当院を利用される全ての皆様と職員のご理解ご協力に、心から感謝しております。

日々、院内感染対策チームで多職種の連携を図り、院外ネットワークを活かし新型コロナウイルス予防対策に尽力しております。その中で、病院としての医療体制や機能が滞ることが無いように細心の注意を

払いながら、「病院」を利用するすべての皆様に「安心・安全」を提供できることを目指しています。

患者さんやご家族の皆様、病院内で奮闘しているスタッフが不安に煽られないように、正しい対策と情報発信に努め、正しくウイルスを恐れながら、より安心・安全な環境を整え継続していくことが当面の課題と考えております。

「いつでも、どこでも、何でも」相談しやすい環境が作れるように努めておりますので、どんな些細なことでも、お気軽にご相談ください。



防護用具 着脱訓練

画像センター装置更新の紹介 第1回 X線一般撮影システム

放射線室 主任補 診療放射線技師 高須賀 弘喜

【はじめに】

当センターでは今年度、以下の装置更新を行いました。

- ① X線一般撮影システム
- ② X線CT撮影装置 (2台)
- ③ 診断の補助画像を作成するワークステーション

この度、更新した装置を3回にわたり紹介させていただきます。まず第1回目は、

① X線一般撮影システムです。

【画期的なシステム: FPDシステム(Flat Panel Detector)】

X線一般撮影とは、よく言われる「レントゲン写真」と呼ばれる検査です。

以前はフジフィルム社のCRシステム (Computed Radiography) を使用しておりました。この度、コニカミノルタ社の FPDシステムへと



図1
コニカミノルタ社製
FPDシステムCS-7

大幅な更新となり、私たち医療従事者のメリットが、そのまま患者さんに恩恵を還元できることになりました。

—医療従事者側のメリット—

- 診療放射線技師の負担減少
 - 素早い画像確認が可能
 - 画像処理技術の進歩による診断能の向上
- 従来のCRシステムは、X線撮影ごとにCRプレートを用意し、撮影から画像確認までに1~2分かかります。撮影が複数になればなるほど、時間を要していました。

新しいFPDシステムは、フラットパネル(図1)を使用し撮影することにより、瞬時に画像を確認できるようになりました。複数箇所の撮影でもパネルの交換は不要となり、時間を要さず連続撮影が可能という特性があります。

—患者さんのメリット—

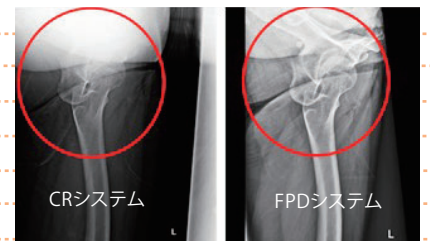
- ★ 被ばくの低減
- ★ 検査時間の短縮



画像センタースタッフ(筆者は後列左から6番目)

CRシステムに比べ、FPDシステムとソフトウェアにより、X線量を全体的に約20%減らしても、以前同様の良好な画像の提供が可能になりました。

X線量を減らすことで被ばく量を抑えられ、総検査時間の短縮により、より安心して検査を受けていただけます。



画像処理技術の向上により、見えにくかった場所も表示可能となりました

【おわりに】

次回は新しくなった、GE社製② X線CT撮影装置の紹介です。お楽しみに!